

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[18]バナジウム及びその化合物(バナジウムとして)</p>	<p>【水質】</p> <pre> graph TD A[水質試料 100mL] --> B[加熱 硝酸 1mL 10分間] B --> C[pH調整 2M酢酸アンモニウム溶液 5mL アンモニア水、硝酸 pH2.5~3.0] C --> D[固相抽出^{注1 注2 注3} Sep-Pak Concentrator 5mL/分] D --> E[洗浄 0.1M酢酸アンモニウム 20mL] E --> F[溶出 3M硝酸 2mL×2回] F --> G[定容 精製水 20mL] H[内標準添加 リットリウム^{注4}] --> G G --> I[ICP-MS] </pre> <p><注>次に示す方法を採用した例もあった。</p> <p>1:固相抽出を省略した。</p> <p>2:Sep-Pak Concentratorは使用せず、注射器に固相カラムを接続し、自然滴下により試験液を通水させた。</p> <p>3:固相抽出の定量送液にはペリスタリックポンプを使用した。また、測定機器としてSII SPQ9400を使用した。</p> <p>4:内標準物質として、ガリウムを使用した。また、測定機器としてHITACHI ICP-MS P-5000を使用した。</p> <p>「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠</p>	<p><分析原理> ICP-MS</p> <p><検出下限値> 【水質】 (ng/L) [18] 2.4</p> <p><分析条件> 機器^{注3 注4} ICP-MS : Agilent 7500c</p>